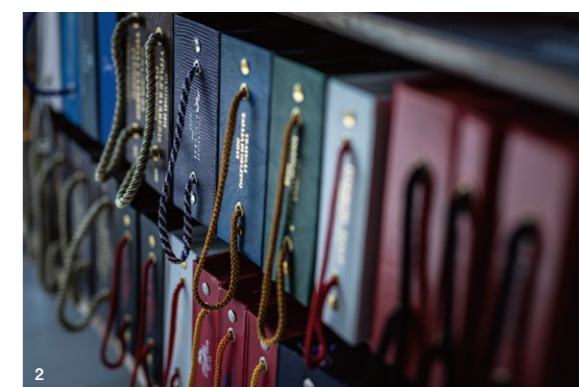


PRODUCT STORY

北海道の大切にしたいものたち

vol.15

たけやま けんた
採寸師 竹山 賢太



1. 竹山賢太。1976年生まれ、札幌市出身。10年間東京でイタリアパレルの会社に在籍。主にオーダースーツ、オーダーシューズのセレクト商品担当。3年前に札幌に戻り、オーダースーツブランド「Biancco」を立ち上げる。
2. 様々なブランドの生地サンプル帳の写真。「Biancco」のスーツは、ホームページよりお問い合わせもしくは、各地で開催されるトランクショーに参加してスタートとなる。その後、実際の採寸や生地提案。じっくり話し合っ作ることになるので初めて人でも安心して挑戦できそう。

「採寸師」とは何を採寸するのか——。竹山賢太は自分のオーダースーツブランド「Biancco」の採寸師だ。文字通り、体のサイズを測るプロであり、それぞれの体系に合わせた調整をしていく。よりスタイル良く見えるように、より着心地が良いように、など細かく調整しつつ似合う形や生地などをセレクトする。着る人の個性が活きるためのオリジナルのスーツを提案する、そんな仕事だ。

く補正することによって、体に沿う美しいものに変化する。腕を上げた時に裾が上がらないように、ヒタヒタすぎずスマートなシルエット、適度なゆとりは着心地につながっていく。羽織った瞬間から体に吸い付くように馴染む、そして見た目は品があり美しいシルエットで着ていくとくるとくる感覚、どんな人にもその人に似合うバランスが見つけられると確信しているという。

みがある。イギリス式のスーツは逆三角形のシルエットを構築して男らしいスタイル。現代版の鎧とも言われるガツチリとしたデザインで、胸板が薄くても男らしさを演出してくれる。イタリアはイギリスを進化させた上に柔らかな着心地を大切にするため、芯地を薄く軽いものを使い男性美を強調する作りだ。そして大柄の人にも動きやすくガツチリとした印象のアメリカ式。Bianccoのジャケットはイタリア式の着心地、シルエットを大切に、希望により選択できる芯地を全く使わない「一枚仕立て」、袖山にギャザーを入れ優雅な曲線を描く「ナポリ袖」も魅力的な作りだ。

子供の頃、父がいつもスーツをカッコよく着こなしている姿を見て、憧れた。10年以上イタリアのアパレル商社に勤め、その時に出会ったオーダースーツやシューズに影響を受けこの仕事を選んだという。じっくり時間をかけて、個人の個性をより打ち出せるものを作りたい。できるだけ低コストで毎日着たい。生地、縫製によって金額は様々だが、3つのコースの一番お手軽なものは既成のスーツと同じくらいの金額でオーダー出来るのもうれしい。

自ら毎日スーツを着て生活している。ランニングなどを日課にしている。スーツをカッコ良く着れる男性でいたいと語る。

..... **Biancco** (ピアンコ)
男女のスーツはもちろんのことカジュアルジャケット、シャツ、パンツなどもオーダーできる。3つのラインから選ぶことが可能。
e-mail: info@biancco.com URL: https://biancco.com TEL.050-5307-2680
.....

9・10月に旭川・釧路・帯広・東京でトランクショー予定



38,000円〜+税
(生地によって金額に幅がある)

スーツ